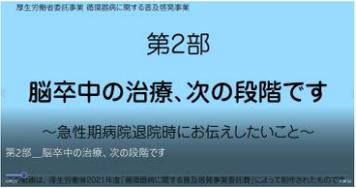
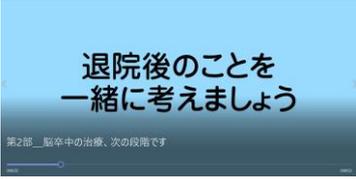
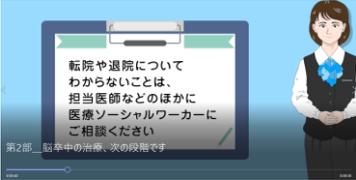
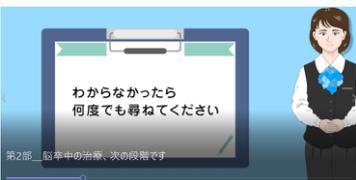
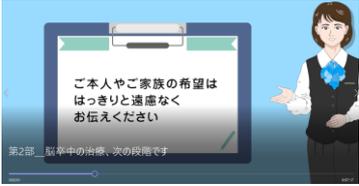
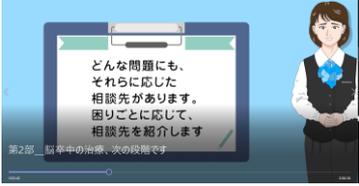
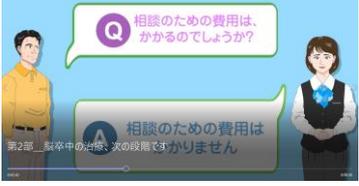
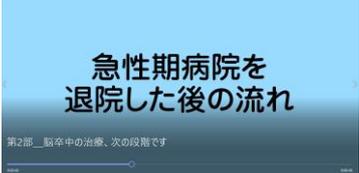
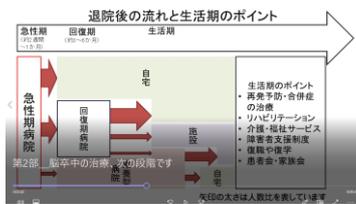


映像	内容
	<p style="text-align: center;">第2部</p> <p style="text-align: center;">脳卒中の治療、次の段階です ～急性期病院退院時にお伝えしたいこと～</p> <p style="text-align: center;">*左端の数字は、開始からの経過時間を示しています。</p>
   	<p>-0分33秒 医療ソーシャルワーカー</p> <p>こんにちは。医療ソーシャルワーカーの佐藤です。 病院に入院する時、または入院中に、何か困りごとがあった時に、誰に相談すればいいかわからない、または必要な手続きがわからない、など、悩むことが出てくるかもしれません。そんな時に病院の中で相談窓口となっているのが、私たち、医療ソーシャルワーカーです。 今回は、脳卒中のために緊急で入院された病院から、他の病院に移ったり、退院される場合にお伝えしておいた方がよいことを、私からお話したいと思います。</p> <p>-1分27秒</p> <p>転院や退院をするに当たっては、わからないことがたくさんあると思います。それらについて、患者さんご本人やご家族だけで思い悩むことはありません。担当の医師、看護師、リハビリのスタッフ、そして、私たち、医療ソーシャルワーカーといった、専門の人間と、一諸に考えていきましょう。</p> <p>どんな相談事でも遠慮なくご相談ください。 気軽に声をかけて下さい。そして、わかりにくいことがあったら、何でも尋ねて下さい。</p>

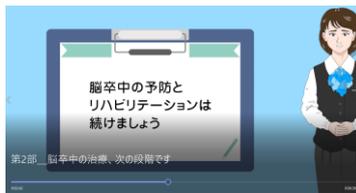
映像	内容
	<p>そして、相談をされる時は、ご自分やご家族の希望をはっきりとおっしゃって下さい。少しぐらい厚かましくてもかまいません。ご希望の内容を伺わないと、何も始まらないのです。</p>
	<p>また、退院した後の生活では、入院中には予想もしなかった問題に直面したり、新たな困りごとが生じることがあります。でも、どんな問題にも、それらに応じた相談先がありますので、遠慮なくおっしゃって下さい。</p>
	<p>-2分49秒 患者 あもう、ちょっと質問、よろしいでしょうか。</p> <p>医療ソーシャルワーカー はい、どうぞ。</p>
	<p>患者 ご専門の方がたに相談させていただくのはありがたいのですが、相談のための費用はどうなるのでしょうか。</p>
	<p>医療ソーシャルワーカー 医療ソーシャルワーカーの相談は、入院治療の一環として入院費用に含まれます。個別の相談費用がかかるということはありません。ご安心下さい。</p> <p>患者 わかりました。</p>
	<p>-3分24秒 医療ソーシャルワーカー 次に、急性期の病院を退院した後、患者さんはどのような生活を送るのでしょうか。</p>

映像

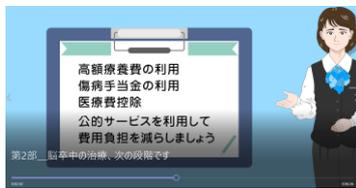
内容



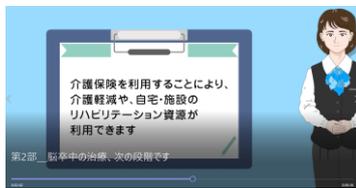
その流れを示したのが、この図です。
自宅に戻り、かかりつけ医のもとで治療を続ける場合、
リハビリテーションを続けるために、回復期の病院に移る場合、
療養型の病院に移る場合などがあります。
患者さんの状況やご家族の希望を伺いながら退院後の療養や
リハビリテーションの準備を進めていきます。



このように、患者さんの回復の様子によって、退院後の道はいくつかに分かれていますが、どの道をたどることになっても大切なことは、脳卒中の予防とリハビリテーションを続ける、ということです。



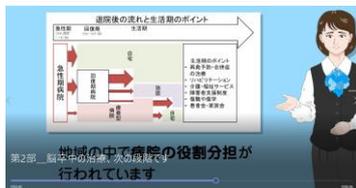
また、治療やリハビリテーションには長い時間がかかることが多いため、費用的な負担がのしかかることも大きな問題です。そこで、高額療養費の利用や傷病手当金の利用や、医療費控除など、公的なサービスを利用して、費用負担を少しでも軽くすることを考えましょう。



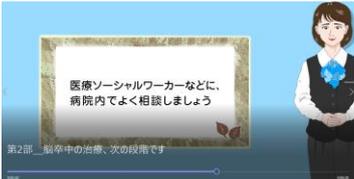
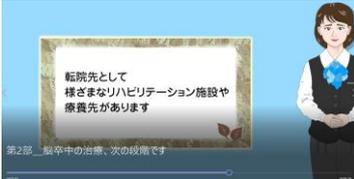
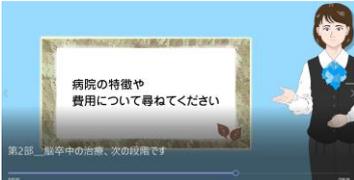
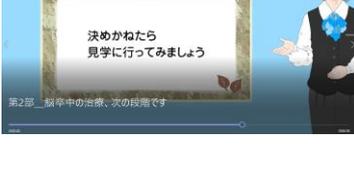
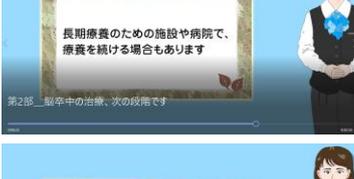
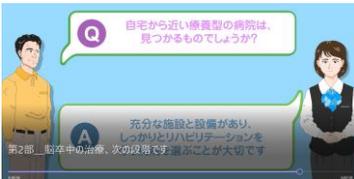
また、介護保険を利用することにより、介護の負担を軽減したり、自宅や施設のリハビリテーション資源を利用できる方法もあります。

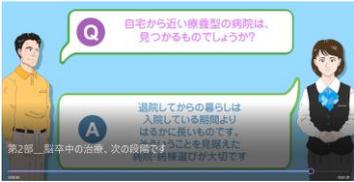


-5分 10秒



先ほどの図にお示したように、急性期の治療が終わって、退院して自宅に戻る場合もありますが、転院して、リハビリテーションや療養を受けることが望ましい場合もあります。病院にはさまざまな役割があり、地域の中で、役割分担が行われています。
身体の状態や、これからの暮らしのイメージに合わせて、転院先を選びましょう。

映像	内容
	<p>そうはいつでも、転院先の選定は不慣れなことですよ。そんな時は、私たち、医療ソーシャルワーカーや専門スタッフに相談して下さい。</p>
	<p>転院先としては、集中的なリハビリテーションを行う回復期リハビリテーション病院をはじめ、様々なリハビリテーション施設や療養先があります。</p>
	<p>費用のこともご心配でしょうから、それぞれの違いについて、遠慮なくお尋ね下さい。</p>
	<p>また、私たち、医療ソーシャルワーカーからの情報だけでは、まだよくわからないなあと思われる場合があるかもしれません。そんな時は、転院先の候補の病院に出向いて、見学することもお勧めします。</p>
	<p>また、回復期リハビリテーション病院でのリハビリテーションの後に、自宅に戻るのではなく、長期療養のための病院や施設に移って、療養生活を続ける場合もあります。</p>
	<p>そんな時も同様です。私たちに相談する、場合によっては、ご家族の方が、転院先の候補の病院を見学してみるなどして、わからないことや心配なことをできるだけ解消しましょう。</p>
<p>-7分 15秒</p>	<p>患者 あう、質問、いいでしょうか。</p> <p>医療ソーシャルワーカー はい、何でしょう？</p>
	<p>患者 リハビリの病院や療養型の病院って、結構長い間、入院することがあると聞きました。そういう病院が、家から遠いと、家族が困ると思います。私の自宅の近くで、手頃な病院が見つかるものなのでしょうか。</p>

映像	内容
	<p>医療ソーシャルワーカー</p> <p>ご自宅の近くに…。地域によって病院の立地条件は異なります。身近なところに、適した病院があればベストなんですが、回復期という大事な機会をできるだけ有効に活用するためには、十分な施設と設備を持ち、しっかりとリハビリテーションを行う病院を優先して選んだ方がよい場合もあります。何を優先して療養先を決めるとよいか一緒に相談していきましょう。このことは、療養型の病院の場合も同じです。</p> <p>退院してからの暮らしは入院している期間よりはるかに長いものです。そういうことを見据えた病院・病棟選びが大切だと思います。</p> <p>患者 なるほど、わかりました。</p> <p>医療ソーシャルワーカー</p> <p>今、皆さんがいる急性期の病院での治療に一区切りがついても、その先には、根気のいるリハビリテーションや療養が待っている、そんな場合が少なくありません。</p> <p>どうか、私たち医療ソーシャルワーカーや、専門のスタッフに気軽に声をかけていただいて、これからのことを、一諸に考えていきましょう。</p>
	